

日本人母語話者の韓国語翻訳に現れる 誤用傾向

オム キ ジュ
巖 基 珠

1 はじめに

外国語としての韓国語を学習するとき発生する誤用について関心がはられるようになったのは1980年代半ばころからである。初期の研究は教育現場で個人的に得られた資料を材料にした小規模のものが殆どだったが、最近では大学などで韓国語教育が活発になり、多量の誤用資料が得られるようになって、それらのコーパスを作り、それを使った成果も出ている (Kosok-ju, Kim mi-ok 他)。その研究では、コーパスを作るだけでなくそれを様々な角度から分析し、韓国語学習で出る誤用を満遍なく指摘している。ただ惜しまれるのは誤用の原因についての分析が足りず、教育方法を提示するまでに至らなかったことである。その原因としては、そのコーパスが韓国に留学中の学習者たちのものであるため、誤用に密接に関連する母語の影響など特殊な要素を考慮できなかったことが考えられる。ところが、その研究でも日本語母語話者の場合、英語や中国語の母語話者と比べ誤用率が若干低いという結果が指摘されている。なぜ「若干」にすぎなかったかは疑問だが、少なくとも日本語の母語話者の誤用傾向は英語や中国語の母語話者のものとはかなり量質ともに差があると思われる。

ここで扱う誤用例は、日本語母語話者が日本で韓国語を学習し、大学の上級授業が受けられるレベルの学習者のものである。日本で行われる韓国語教育の場合、初級・中級・上級をどこで線引きするか明らかではなく、

検定試験などの基準を参考にするしかない。現在、日本で行われる韓国語検定試験は2つある。「韓国語能力試験」では中級と上級を分ける基準を数字で示していない。一方で、「ハングル能力検定試験」は中級前半の段階として設定されている三級は、60分の授業を160時間受講した程度とし、中級後半の段階として設定されている準二級は、60分の授業を240～300時間受講した程度としている。今回の資料はこのような基準にいうと「中級後半」に当たる学習者のものである。

そして、この誤用例は日本語を韓国語に訳す際に現れたものである。与えられた日本語文の翻訳の場合、母語の干渉が自由作文より多く現れる可能性がある。一方、自由作文では学習者自ら誤用を回避し、限られた表現しか使わない可能性がある。先行研究で使われている資料はほとんどが自由作文であるが、それだけでは誤用の全てを把握することは出来ないだろう。与えられた日本語文の翻訳資料はこうした限界を補うのではないかと思われる。

筆者は韓国語を教えるはいるが語学の専門家ではないので韓国語学についての知識が乏しい。そのせいか教育現場で感じる疑問が多い。本稿はそのような素朴な疑問をまとめ、今後の語学研究に少しでも役立てることを願って書かれたものである。したがってすでに先行研究が充分なされ、初級レベルの学習書にも載っている内容なのに不完全な学習のため起きる誤用、または学習書に載る程度のレベルではないがすでに多くの先行研究がなされているよく知られた誤用例はなるべく省いて、それ以外の誤用の一部を紹介して見るつもりである。しかし、先行研究についての調査が充分でなくて、自ら立てたこの基準に合わないことを書くかもしれない。その点についてあらかじめお許しを願いたい。

2 助詞の誤用

他の言語圏の学習者と違い、日本語母語話者にとっては助詞は一番学び

やすい項目であろう。しかし、それはあくまでも日本語と韓国語の助詞を一对一に置き換えられる初級レベルに限った話であり、それからずれているものに関しては、かえって学習しにくい。例えば、「友達に会います」を韓国語にすると「친구를 만납니다」になり、日本語の動作の対象を表す「に」を同じく対象を表す「を」にあたる助詞にずらして対応させなければならない、次にまた「学校で学びました」「これは箸で食べますか」を韓国語に訳するとそれぞれ「학교에서 배웠습니다」「이건 젓가락으로 먹어요?」になり、日本語において形は同じ「で」であっても、前者では動作の行われる場所を表すのに、後者は材料・手段を表すのに応じて、韓国語でも「에서」と「(으) 로」二つを使い分けしなければならない。二つだけではなく三つ以上になる場合もある。さらに日本語では助詞を使って表現する必要があるのに韓国語では助詞を省略しなければならない場合もある。最初の一致せずずれて対応する助詞に関してはすでに学習書にも載っていて覚えればすむが、二番目、三番目のものについてはまだ要領よくまとめたものが見当たらない。ここではそうした事項と関連した誤用の傾向を見ることにする。

以下の例文は、説明に使われる部分の誤用の部分のみを原文のまま残して短くし、説明と関係のない残りの部分の誤りは綴りの修正を含め、非文にならないように直した。ここでの修正は学習者の表現をなるべく生かしたため自然な表現ではないものもある。下線は誤用の部分、括弧の中は正しい表現である。

①今日のお昼は何を食べましょうか。

오늘의 점심은 뭘 드실까요? (오늘 점심)

②これが英語の試験問題ですが、とても難しいです。

이것이 영어의 시험문제데 너무 어려워요. 영어 시험 문제)

③あそこの本屋の前で止めてください。

저기의 책방 앞에서 차를 세워 주세요. (저기 책방)

④花屋できれいなバラの花を買いました。

꽃집에서 예쁜 장미의 꽃을 샀어요. (장미꽃)

⑤教室の中でお茶を飲んでもいいですか。

교실의 안에서 차를 마셔도 괜찮아요? (교실 안)

⑥新入社員の小林さん

신입사원의 고바야시 씨 (신입사원인 고바야시 씨)

所有・所属を表す日本語の「の」にあたる助詞には韓国語に「의」があるので、置き換えればすむことが多いが、日本語と違って助詞を使わない場合も多い。それは同じ日本語の「の」でも意味の異なるものに対して、対応する韓国語の表現が異なるからであるが、問題はそれほど簡単ではない。例えば、「先生のカバン」のように所有・被所有関係、「友だちの弟」のように親族間での所属関係でも省略されるし、①～⑤のように場所や材料などさまざまな場合に「의」が省略され、そうしなければ不自然である。ところが、「明日の幸福」「数学の天才」「絵のもち」「前のもの」「三分の一」のように抽象的な表現、文語的な表現、他のものと比べると、修飾関係を明確にする必要があるときなどは省略できない(梅田博之)。個々の場合についての説明だけを見れば一見明瞭ではあるが、一般的な基準にはなりえない。こうした個々の場合の説明だけでは、学習者が「あそこの本屋」「教室の中」は「의」を省略し、「前のもの」には「의」を入れるという使い分けが正しくできるようになるかは疑問である。

また、⑥のように前後の名詞が同格関係の場合は、「～である」という意味の用言である指定詞「이다」の連体形の「인」を使わなければならない。それでも、以上のことは先行研究でも言及されていることである。ところが、以下のような例はそうした説明でも触れられていないものである。

⑦社員の皆さんと話し合いつつ解決を図って生きたいと考えております。

사원의 여러분하고 서로 이야기하면서 해결을 주선할 생각합니다. (사원 여러분)

⑧今度入社した人は、新人のくせにあいさつもしない。

이번에 입사한 사람은 신인 주제에 인사도 안 해요. (신인인 주제)

⑨雨の日は自転車は不便ですね。

비의 일은 자전거는 불편하네요. (비 오는 날)

⑩マリが授業中に何回も話しかけてくる。

마리가 수업 중에 몇 번도 말을 걸어 온다. (몇 번이나)

⑦「社員の皆さん」の場合、「社員」と「皆さん」が同格なのに、同格を繋ぐとき使う「인」が使えない。もし使ったとすれば使い方が変わってくる。⑧は「주제」が「分際、身の程」を意味する名詞で、ここでは「新人」そのものをみく다す意味で使っているので同格関係に近いと看做すことができ「인」を使うが、「くせに」にあたる「주제에」が「그 사람 주제에 그걸 할 수 있겠어?」(彼のあれしきの程度でそんなことできるだろうか?)のように使われた場合は「의」も「인」も使えない。ここで「인」の使い方を説明するのに「同格関係」という単純な説明だけでは足りないことが分かる。また⑨のように日本語では「の」で繋いであるが、所有・所属でもなく同格でもない句であるので、それを単純に形式的に直訳して「의」または「인」に直せばもちろん韓国語の句としては成り立たない。

以上のような「の」の誤用の原因は日本語の「の」がさまざまな意味範囲に及んでおり、韓国語の「의」が主として所有・所属関係に限定されていることとは異なるところにあるようだ。例えば、「私の書いた論文」の「の」を主格助詞である「가」と変えて「私が書いた論文」としても意味は変わらない。同じようなことは日本語の「に」や「で」についても起こり、そ

それぞれ韓国語では二つまたはそれ以上の助詞になる。これもこれら日本語の助詞が形は一つでも意味が広い範囲にわたっていることが原因と考えられる。

⑩は「も」の翻訳の誤りで、日本語の「も」が同じようなことが同様の状態で繰り返される意味のときには、韓国語でも一般的に「도」を使うことができ、たとえば「몇 번도 쓰지 않았는데 고장이 났다」(何度も使っていないのに故障した)とは言えるが、⑩のように予期に反して程度が度を越していることを表すときには「(이) 나」が使われる。しかし程度を表す意味以外にも「중국어나 한국은 일본에서 가깝다」(中国や韓国は日本から近い)のように列挙をあらわす「や」にあたる場合とか許容・譲歩をあらわす「でも」にあたる場合でも「저거나 주세요」(あれでもください)のように「(이) 나」が使われるので説明はそれほど簡単ではない。つまりこれまで日本語の助詞について述べたと同じことが韓国語の助詞についても言えるので、日本語と韓国語の助詞がともに意味範囲が多方面にわたっていて互いに意味のずれがありうることを学ぶ必要があるのかもしれない。

日本語には「では」「にも」のように「で」と「は」、「に」と「も」をそれぞれ組み合わせた助詞がある。韓国語も同様である。しかし、このような使い方を拡大解釈してしまうと以下のような誤用が発生する。

⑪何か事故でもあったのではないだろうか。

뭔가 사고에서도 있었지 않을까. (사고라도)

⑫けんかでもしたのか、彼は傷だらけになって帰ってきた。

싸움에서도 했을까, 그는 상처 투성이가 돼서 돌아왔다. (싸움이라도)

⑬たとえ困難でも、これを一生の仕事と決めた。

가령 곤란이라고 하더라도 이것을 평생 할 일이라고 정했다. (곤란하더라도)

⑭申し込み用紙は3月1日までにお送りください。

신청 용지는 삼월 일일까지에 보내 주세요. (일일까지)

⑪⑫の誤用は分解できない一語の助詞「でも」を「で」と「も」に分解し、それぞれ対応する韓国語の助詞「에서」(で)と「도」(も)を組み合わせて「에서도」(でも)にしたところで発生したものあり、日本語の文の誤読とも言えるものである。これ場合は「でも」に対して「(이) 라도」、場合によっては「(이) 나」という助詞を使わなければならない。もちろん「で」と「も」の単純な組み合わせである「でも」の場合は「에서도」が使われるのであり、例えば、「여기에서도 그 행사를 합니까?」(ここでもその行事が行われますか)のような場合である。

一方、⑬のように「でも」が形容動詞の活用形に助詞「も」がついた場合には「이라도」と訳せるわけではなく、誤りである。日本語の形容動詞にあたるのは韓国語では形容詞であるのでこの場合は「困難だ」という意味の形容詞に「더라도」という語尾をつけなければならない。この誤用の原因は日本語の文で形容動詞の語幹を名詞としそれに助詞「でも」をつけたことにあり、学習者が日本語の文を正しく読んでいないことから起きている。⑭の例は二つの助詞「まで」と「に」の組み合わせに対する誤用の例だが、この場合は韓国語では「に」にあたる助詞はつけない。先ほどのべた「の」と「의」の使用法に似たような対応例になっている。

⑮そのバンドは東京公演を皮切りに、各地で公演をすることになっている。

그 밴드는 동경 공연을 시작하여 각지에서 공연을 할 것이다. (시작으로)

⑯今回の取引を限りに、今後A社とはいっさい取引しない。

이번의 거래를 끝에, 이후 A사와는 일체 거래하지 않겠다. (끝으로)

日本語で動作の目的地や方向を表す「に」は韓国語の「에」または「(으)로」になる場合が多い。前者は場所そのもの・地点を表す場合に使われ、後者は動作の方向を表す「へ」や抽象的な変化の方向や起点を表す場合の「～に変わる」「～に分ける」「～から」で置き換えることができる場合などに使うと説明されることが多い。しかし実は「(으)로」の使い方はとても複雑である。例えば「그 이야기는 근본적으로 틀렸어요」(その話は根本的に間違っています)「이건 처음으로 공개하는 거예요」(これは初めて公開するものですよ)などのように資格や状況に関する使い方がある。ここでも韓国語の助詞の使い方について正確な知識が要求されているようである。

韓国語にも日本語と同様、自動詞と他動詞があつて動詞によって助詞を変えなければならない。これに関する誤用は、語彙が少ない初級レベルにはあまり現れないもので、中級以上のレベルでかなり多い。

⑰本件に関しましては、結論が出るまでにはもうしばらく時間をいただきたいと思います。

이 건에 대해서는 결론이 낼 때까지 좀 시간을 주셨으면 합니다. (결론이 나올 때 / 결론을 낼 때)

⑱字がよく見えるように前の席に座りましょう。

글씨가 잘 보도록 앞에 앉읍시다. (글씨가 잘 보이도록)

自動詞と他動詞の使い分けは、日本語をそのまま直訳すればすむので、⑰や⑱のような間違いがなぜ起こるのか一見理解しにくい。⑰の場合、自動詞「나다」(出る)と他動詞「내다」(出す)の区別がついていれば「결론이 낼 때까지」と翻訳することができる。ただしこの言い方は全くの間違いとはいえないが実はすこし俗な言い回しになってしまう。実はこれらの動詞は単独で使われるケースが少なく、「오다」(来る)「가다」(行く)

「놓다」(置く)などの動詞を組み合わせた合成語, 「나오다」(出てくる) 「나가다」(出ていく) 「내놓다」(出しておく) のように使われる場合が多いため, 学習者が迷わず単独で使うことが一層難しいと思われる。自動詞と他動詞の綴りが酷似しているので学習者にとっては覚えにくいせいも⑮のような単純な誤りがかかり多いが, 少なくとも使い分けの基準ははっきりしている。また⑰の修正が二通りになっているように助詞を変えれば自動詞の文か他動詞の文どちらにしても通じる場合が多い。しかし, ⑱の場合は, 自動詞「보이다」(見える)を選ばず他動詞「보다」(見る)を使って「글씨를 잘 보도록」(字をよく見るように)にすると通じないわけではないがやはり俗な言い方であり, 「글씨를 잘 볼 수 있도록」(字をよく見ることができるように)を使うのが正しい。

3 用言の誤用

用言の誤用研究は主に連用形に集中していて, そのなかでも「(動詞の連用形+)て」である「～(し)て」を韓国語にした場合「～(아/어)서」にするか「～고」にするかの使い分けで起こる誤りが一番よく知られている。韓国語の母語話者は決して間違えることがないこの問題は, 韓国語のもっとも基本的な語法の問題に関係しているはずであるので, その本質を究明し, 学習に役立てようとする論文がいくつもあるが, 未だにこれといった実用にたえる明確な結論が出ていない。それ以外の用言における誤用として, 前も述べたような自動詞・他動詞の区別の誤り, さらに状態の変化を表す「～になる」にあたる「지다」と「되다」の使い分けの誤りなどが中級以上のレベルで学習者を悩ませる典型的なものである。残念ながらこのような誤用についても未だに学習に直接使えるような整理がなされていない。しかしここではそれ以外の場合について検討してみることにする。

①先生は勉強が嫌いな学生に対して、とりわけ親しみをもって接していた。

선생님은 공부를 싫어한 학생에 대해서 특히 친근감을 가지고 접했다. (싫어하는 학생)

②重要なのはこの商品が売れるか売れないかだ。

중요하는 것은 이 상품이 팔릴 것인가 안 팔릴 것인가 하는 것이다. (중요한 것)

形容詞「嫌いだ」にあたる「싫어하다」は韓国語では動詞である。一方、形容動詞「重要だ」にあたる「중요하다」は韓国語では形容詞である。①と②はその動詞と形容詞の品詞の判別を誤って連体形の文法が間違った例である。韓国語には「形容動詞」という品詞が存在しない。韓国語の用言は動詞・形容詞・存在詞・指定詞の四つしかなく、形容詞と動詞は本質的には区別がなく、意味上および一部の活用と語尾で違いがある程度である。上記の誤りは、動詞と形容詞の活用の違う場合に起こった誤りである。学習者がこのような問題を乗り越えるためにはいちいち辞書を引くしかないが、最近、かなりの中・上級学習者が使いはじめようになった電子辞書にはこのような単語の品詞は載っていないようである。しかし一部の単語を除いては対応する日本語の意味上から動詞と形容詞の区別がつくので、学習者が注意を怠らなければこうした誤用もほとんど防ぐことができる。

③パリの国際会議に出席するついでに、森先生を訪ねてみたい。

파리 국제 회의에 출석하는 김에 모리 선생님을 문고 싶다. (방문하고)

④辻さんは子どもの時からイギリスで教育を受けただけに、きれいな英語を話す。

츠지 상은 어렸을 때부터 영국에서 교육을 받은 만큼 예쁜 영어를 한다. (깨끗한)

⑤社員は毎日きちんとタイムカードを押さなければならない。

사원은 매일 또박또박 타임 카드를 밀어야 한다. (찍어야)

사원은 매일 반드시 타임 카드를 눌러야 한다. (찍어야)

⑥あなたに、愛をこめてこの指輪を贈ります。

사랑을 들여서 이 반지를 당신에게 드려요. (담은)

사랑을 포함해서 이 반지를 당신에게 드리겠습니다. (담은)

당신에게 사랑을 품어서 이 반지를 드립니다. (사랑을 담은)

⑦とてもきれいな字を書きますね。

너무 예쁜 글자를 쓰네요. (너무 글씨를 잘 쓰네요.)

③の「たずねる」は「尋ねる・訊ねる」と「訪ねる」の同音異義が存在するので、それに応じて「묻다」と「방문하다」の二通りに訳をすればよい。しかし、④の「きれいだ」の場合は、同じ日本語が異なった意味に使われ、それに応じて訳も「깨끗하다」と「예쁘다」の二通りに使い分けをしなければならない。前者は「清潔だ」後者は「美しい」の意味である。学習者の立場から見てもこの程度なら簡単な方であろう。しかし、⑤のように「押す」といってもタイムカードの場合は「찍다」で、呼び鈴やスイッチなどは「누르다」で、人など大きなものなら「밀다」など、対象によって使い分けをしなければならなくなったらかなり複雑である。特に⑥の「こめる」はもっと難しい例で、「품다」「담다」「들이다」「포함하다」など、訳できる韓国語が多くて、しかも抽象的な意味で使われるときにはこの区別が容易ではない。③～⑤までなら学習書に載っている場合もあるが⑥程度になったら辞書を引いてその例文を見るしかない。しかし、日本ではまだ例文まで信用できる日韓辞書がない状態である。

⑥のもう一つの誤用は⑦と同様、語順の問題である。日本語と韓国語は語順が一致するが、日本語の語順をそのまま直訳した⑥の最後の例は「あなたに愛を抱くようになったのでこの指輪を贈ります」の意味になってし

まう。⑦の誤用を直訳すると「筆跡がいいですね」という意味ではなく、「文字そのものの形がきれいな字を書いていますね」の意味になる。この場合は、文字にあたる韓国語に意味の異なる「글자」「글씨」の二通りがあることがさらに誤用を複雑にしている。

⑧今度いいコンサートがあったら教えてくださいよ。

이번에 좋은 콘서트가 있으면 가르치세요. (가르쳐 주세요.)

⑨それは先生に質問をしてください。

그것은 선생님께 질문을 해 주세요. (질문하세요.)

動詞の原形を「～(し)てください」の形にするためには原形の後ろに「～(으)세요」か「～아/어/여 주세요」をつければよい。ただし前者はやや丁寧な命令または勧誘の意味の「～しなさい(よ)」「～しましよ(う(ね))」「～しません?」に対応し、後者は依頼・要望の意味で「～してくれませんか」「～をおねがいします」に該当するという違いがある。この文法は初級レベルで学習するものだがこの二つの意味の差についてはあまり言及しないのが普通である。例えば、「내일 빨리 오세요」と「내일 빨리 와 주세요」は二つとも「明日早く来てください」と日本語で同じ訳をすることが多いが、しいて区別すれば「明日は早く来なさいよ」と「明日早く来てくださいますか」程度の区別が生じるので、まったく同じとはいえない。⑧と⑨はこの二つの区別が影響する例である。⑧は相手に対する依頼なので「～(으)세요」は使えなくて、「～아/어/여 주세요」だけが使える。⑨は「～(으)세요」を使う方が自然で、「～아/어/여 주세요」を使えばこの場合はかなり不自然であり、もし使えば状況が変わって相手に対して先生に質問するよう懇願している場面になる。したがって「여기 앉아요 돼요?」(ここ座ってもいいですか)という質問に対しては必ず「～(으)세요」の「앉으세요」(お座りなさい)を使わなければな

らない。一方、劇場などで前の人が立っている場合は、「～아/어/여 주세요」の「앉아 주세요」(座ってくださいますか)を使うのが普通で、もし「앉으세요」を使えば命令調であり前の人から睨まれるかもしれない。

⑩今回をもって粗大ごみの無料回収は終わりにさせていただきます。(お知らせ)

이번으로 대형 쓰레기의 무료 회수를 종말하겠습니다. (알림) (끝내겠습니다.)

이번으로 대형 쓰레기의 무료 회수를 끝내드리겠습니다. (알리기) (끝내겠습니다. (알림))

このような誤用は日本語の「させていただきます」のような日本語を直訳したとき起こる。日本語の独特な言い回しはそのまま訳できないのである。そして、「終わり」の訳にも注意が必要だ。「終わり」は「끝」か「종말」という訳ができるが、これも場面によって使い分けをする。「종말」は「終末」を音読みした漢字語で「끝」は固有語である。漢字語は規模の大きい出来事、正式な場面などで使われる傾向がある。つまり、「오늘 일은 이것으로 끝이다」(今日の仕事はこれで終わりだ)という場合は「끝」を使うが、「곧 세상의 종말이 올 것이다」(すぐに世の終わりが訪れるだろう)の場合は「종말」の方がふさわしい。⑩の二番目の誤用にはもう一つの誤りがある。「お知らせ」の訳は、「알리다」(知らせる)という動詞に名詞形を作る語尾として「～(으)ㄴ다」か「～기」どちらかをつけるようになるが、この文では「～기」は使えなくて、「～(으)ㄴ다」を使うようになる。この名詞形の使い分けについては、易しいとは言えないが明確な区別方法があることはある。具体的な動作を想定した動名詞「～すること」の意味の場合は「～기」、動詞が抽象的な意味の名詞となった場合は「～(으)ㄴ다」である。たとえば「笑いだした」の場合は「笑う」の意味

の動詞に「～기」をつけた動名詞「笑うこと」の意味の形にし、「ほほえみ」の場合は「～(으)口」のついた形を使う。

⑪今年になってからいうもの、円高傾向は進む一方だ。

올해가 되어서도 엔고의 경향은 나아가는 일로이다. (계속되고만 있을 뿐이다.)

올해가 되어서도 엔고의 경향은 나아가는 한편이다. (계속되고만 있을 뿐이다.)

⑫どんなに悪く言われようと、あの人は平気らしい。

この非常時にあって、あなたは どうしてそんなに平気でいられるのですか。

이 비상시에 너는 어떻게 그렇게 평기로 있을 수 있어요? (태연할 수 있어요?)

⑬木村先生は急用で学校へいらっしゃいません。

키무라 선생은 급용으로 학교에 못 오십니다. (급한 용무로)

⑭父は厳しい人だ。

아버지는 엄숙한 사람이다. (엄격한 / 엄한)

⑮今回のアルバイトでわたしは働くことの厳しさを身をもって経験した。

나는 이번의 아르바이트로 일하는 것의 엄격함을 몸으로 경험했다. (어려움)

⑪～⑬は「一方」「平気」「急用」などは音読した漢字語が韓国語には存在しない。こうした例はこれ以外にも「心配」「上手」「下手」「半分」「得意」「十分」「返金」「病気」「来店」「是非」「一言」「一体」「真剣」「自分」「工夫」「文句」など品詞を問わず幅広く存在している。

日本語の漢字を音読した韓国語を作ることから起こる誤用でも上の例と

少し違うものが⑭～⑮である。⑭の場合、「厳しい」の訳として「엄하다」「엄격하다」両方とも使えるが、⑭で使った「엄숙하다」は「厳粛だ」という意味であるため、使われる場面が限られる。ところが、⑮の場合はこの三つとも使えなくて「難しい」にあたる「어렵다」にしなければならない。このいずれの場合でももとの日本語の意味がよく分かっていたら誤りは防げるはずである。

初級レベルでは漢字の音読みを覚えようとする学習者が少ないが、中級レベル以上になると単語を覚えるのに漢字の読み方を覚えた方が効果的であることが分かる学習者が増える。たしかに韓国語の漢字の音読みは日本語と違って殆ど一つしかないのでそのような学習方法は使える場合は多い。しかし、このような学習方法を拡大してしまうと上のような誤用になる。

4 まとめ

本稿でまったく扱けなかったのは、名詞に関係して起こる誤用である。これは漢字の音読みの拡大から起こる誤りが一番多い。そして辞書の間違いから生じる誤りである。これらは一言でいうとそれほど原因が複雑ではないものである。そして、ここで扱った用言の誤用についてもこれらの例はどちらかというより文法というより語彙の範囲にとどまってしまったようである。用言の活用、つまり用言につく語尾に関して起こる誤用が別に存在している。それらの誤用はかなり量も多く、さまざまな要素が絡んでいて簡単ではない。それを整理するためにはかなりの語学的な分析が必要であろう。その問題は今後の課題とすることにする。

韓国語を日本人に教える人の中では、日本語と韓国語の類似さは他に例のないものであるため、その点を生かしたら他の言語圏の学習者よりかなり速く、しかも正確な学習成果が得られると信じている人が少なくない。

中級以上のレベルの学習者もそれを感じているようだ。類似点があることは確かだ。しかしそれは、大筋での語法と語構成などの形式に限られている。発音や語彙そして発想法にはかなりの違いがみられる。韓国語学習者の誤用からは両言語の類似に気をとられ、両言語の差を無視してしまった傾向が見受けられるように思われる。

韓国語と日本語がいくら酷似していても他の国の言葉である。両言語の差は他言語と比べたら微妙なものが多く、繊細に見なければ見落としやすい。その差を感じるためには学習者は自分の母語である日本語について十分反省する心構えがなければならぬだろう。また言葉にはそれを使っている人たちの思考方式やその地域の文化も反映されているはずだ。それら全般についての理解がなければ言葉の差について思いいたることもできないのではないかと思う。

参考文献

- 梅田博之 (1991) 『スタンダードハングル講座2』 東京: 大修館書店, p.17
国広哲弥 (1991) 『日本語誤用・慣用小辞典』 東京: 講談社
グループ・ジャマシイ編著 (2000) 『教師と学習者のための日本語文型辞典』 東京: くろしお出版
Ko sok-ju, Kim mi-ok 他 (2004) 『韓国語学習者のコーパスと誤用分析』 ソウル: 韓国文化社
森田良行 (1985) 『誤用文の分析と研究: 日本語学への提言』 東京: 明治書院
森田良行 (2005) 『外国人の誤用から分かる日本語の問題』 東京: 明治書院
ロッド・エリス (2003) 『第2言語習得のメカニズム』 牧野高吉訳, 東京: 筑摩書房

本稿は、平成18年度専修大学研究助成（個別研究）「日本人の韓国語学習に表れる誤用の傾向」の研究成果の一部である。